

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

小児外科（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

小児疾患において小児外科疾患の占める割合は少なくない。また小児外科疾患はしばしば生命を左右することがあり、迅速な診断と適切な治療が求められる。日常臨床における症状と身体所見、簡単な検査より小児外科疾患を鑑別し、緊急性の判断、行うべき初期治療について学ぶことを目的とする。研修医の将来の専門性にかかわらず、医師として小児外科疾患に適切に対応できる基本的な診療能力（態度、技能、知識）を修得することを GIO とする。

2 プログラム管理運営体制

東邦大学医療センター大森病院外科のスタッフ会議にて、本プログラムの管理、運営を検討する。必要ときには、一般消化器外科・小児科の指導責任者の参加も求める。プログラム内容や運営に問題が生じたときは合議の上で修正や変更を行い、必要に応じて臨床研修指導医を対象とした会を開催して情報の伝達やアドバイスを行う。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

選択専攻での研修期間は4週以上である。東邦大学医療センター大森病院においては、小児病棟（2-4）に配置される。臨床研修指導医の下で周産期病棟および小児病棟の患者を担当し、必要な検査や外来診療も行う。

3-2 一般目標（GIO）

研修医の将来の専門性にかかわらず、医師として小児外科疾患に適切に対応できる基本的な診療能力（態度、技能、知識）を修得することを GIO とする。

3-3-1 行動目標（SBOs）

- 1) 小児外科における重要な疾患およびその症状を理解し、適切な身体診察を行うことができる。
- 2) 状態に応じた適切な検査を選択し、行うことができる。
- 3) 鑑別診断と重症度の評価を行うことができる。
- 4) 初期治療を的確に行うことができる。
- 5) 術前・術後の周術期管理とリスク評価ができる。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1) 問診にて重要な小児外科疾患の可能性を考えることができる。
- 2) 身体診察にて腹部の所見の把握を的確に行うことができ、記載できる。

- 3) 代表的な小児外科疾患の典型的な腹部レントゲンおよび US 検査の所見を評価できる。
- 4) 注射法（点滴、静脈確保）を実施できる。
- 5) 手術の適応と方法を理解する。
- 6) 上部消化管造影検査の施行と解釈ができる。
- 7) 下部消化管造影検査の施行と解釈ができる。

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1) 鼠径ヘルニア
- 2) 急性虫垂炎
- 3) 腸重積症
- 4) 停留精巣
- 5) 陰嚢水腫

・臨床研修ガイドラインにおいて挙げられた、「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」についても各研修分野で該当するものを外来診療または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験する。「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」の詳細については別紙参照のこと。

・上記症候、疾病・病態を経験したことの確認については各研修分野の臨床研修指導医による病歴要約の確認、および卒後臨床研修/生涯教育センターにおいて全研修医の病歴要約の確認をもって行う。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

小児外科疾患

上記疾患の他、新生児疾患、胸部疾患、肝胆膵疾患、消化器疾患、尿路疾患などの検査、手術経験をを行う。

3-4-1 学習方略（LS）

1) 病棟業務

- ・検査、診察、方針検討：各症例について行う
- ・教授回診での症例説明

2) 外来業務

- ・基本的には上級医の指導の下で外来診療を行う、場合により問診を行う
- ・必要時、検査、ルート確保、その他を行う

3) 小児外科検査

- ・生理検査：超音波検査
- ・透視：上部消化管造影、注腸造影
- ・内視鏡：上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡
- ・直腸内圧検査・直腸粘膜生検

4) カンファレンス・勉強会

- ・外科カンファレンス（毎週月曜日 7:30～）

- 外科全体の症例検討会、小児外科の症例提示は必要時に行う
- ・新生児カンファレンス（毎週金曜日 16：30～）
 - 新生児外科疾患について症例検討会を行う
 - ・小児血液カンファレンス（不定期）
 - 小児固形腫瘍について症例検討会を行う

3-4-2 週間スケジュール

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
9：00～	回診	回診 外来診察	回診 手術	回診 外来診察	回診 手術	回診
14：00～	検査（透視）		症例検討会			
16：00～	回診	回診	抄読会 回診	回診	新生児症例 検討会 回診	

3-5 評価（E V）

小児外科疾患に適切に対応できる基本的な診察能力（態度、技能、知識）が修得されたかを基準として評価する。プログラム修了時に、臨床研修指導医が総合評価する。各種教育行事への出席状況、研修医症例発表会での発表回数や内容も評価の対象となる。

3-6-1 指導体制

本プログラムの最終的な指導責任は、基幹病院である東邦大学医療センター大森病院小児外科の指導責任者にある。研修医は診療チームに配属され、臨床研修指導医の下でチームの一員として指導を受ける。チームメンバーからもさまざまな指導を受けるが、直接的な指導責任は臨床研修指導医にある。

3-6-2 指導医

添付資料『臨床研修指導医』該当診療科の臨床研修指導医、及び指導医責任者を参照のこと。

3-6-3 協力施設

※詳細は臨床研修病院群〔プログラム冊子添付資料〕参照